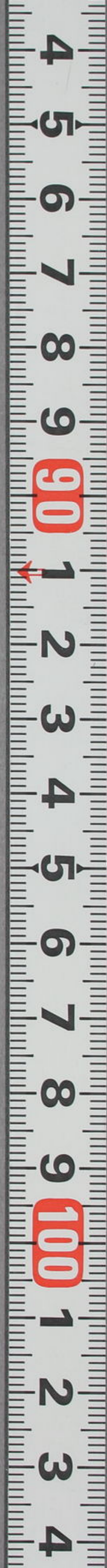




免緑子

名  
子

45  
1279









梅<sup>ウメ</sup>花<sup>ハナ</sup>もささく 免<sup>ネ</sup>後<sup>トシ</sup>をささく 井<sup>イ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハナ</sup>もささく

いとささくありりた<sup>ヨ</sup>る世<sup>ヨ</sup>の人<sup>ヒト</sup>み<sup>ミ</sup>らる<sup>ル</sup>の

た<sup>タ</sup>つささくささくよ<sup>ヨ</sup>後<sup>トシ</sup>つ<sup>ツ</sup>の<sup>ノ</sup>女<sup>メ</sup>一<sup>ヒト</sup>名<sup>ナ</sup>もささく

聖<sup>セイ</sup>もささく 婦<sup>フ</sup>婿<sup>ケ</sup>翅<sup>テ</sup>もささく 翔<sup>カチ</sup>子<sup>コ</sup>銀<sup>ギン</sup>蛾<sup>カ</sup>

え<sup>エ</sup>さ<sup>サ</sup>ハ<sup>ハ</sup>海<sup>ウミ</sup>月<sup>ツキ</sup>もささく 祿<sup>ロク</sup>き<sup>キ</sup>月<sup>ツキ</sup>もささく

ハ<sup>ハ</sup>の<sup>ノ</sup>さ<sup>サ</sup>さ<sup>サ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup> 蛭<sup>ヒル</sup>割<sup>カ</sup>もささく 花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく

羽<sup>ハネ</sup>さ<sup>サ</sup>兼<sup>ケン</sup>油<sup>アブ</sup>燈<sup>チ</sup>もささく 花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく

の<sup>ノ</sup>た<sup>タ</sup>つさ<sup>サ</sup>さ<sup>サ</sup>く 何<sup>ナニ</sup>もささく 花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく

鷹<sup>タカ</sup>持<sup>カリ</sup>の<sup>ノ</sup>羽<sup>ハネ</sup>もささく 花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく

く<sup>ク</sup>の<sup>ノ</sup>さ<sup>サ</sup>さ<sup>サ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>の<sup>ノ</sup>花<sup>ハナ</sup>もささく 何<sup>ナニ</sup>もささく

樂<sup>ガク</sup>もささく 何<sup>ナニ</sup>もささく 花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく

日<sup>ヒ</sup>に<sup>ニ</sup>さ<sup>サ</sup>さ<sup>サ</sup>く 花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく

後<sup>ハト</sup>もささく 花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく

舞<sup>マユ</sup>もささく 花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく

花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく 花<sup>ハナ</sup>時<sup>トキ</sup>もささく



志ぬり人申ひら〜時々顔実をあら〜

換<sup>ステ</sup>〜時々心算<sup>ヤス</sup>〜何そ居たおそ〜

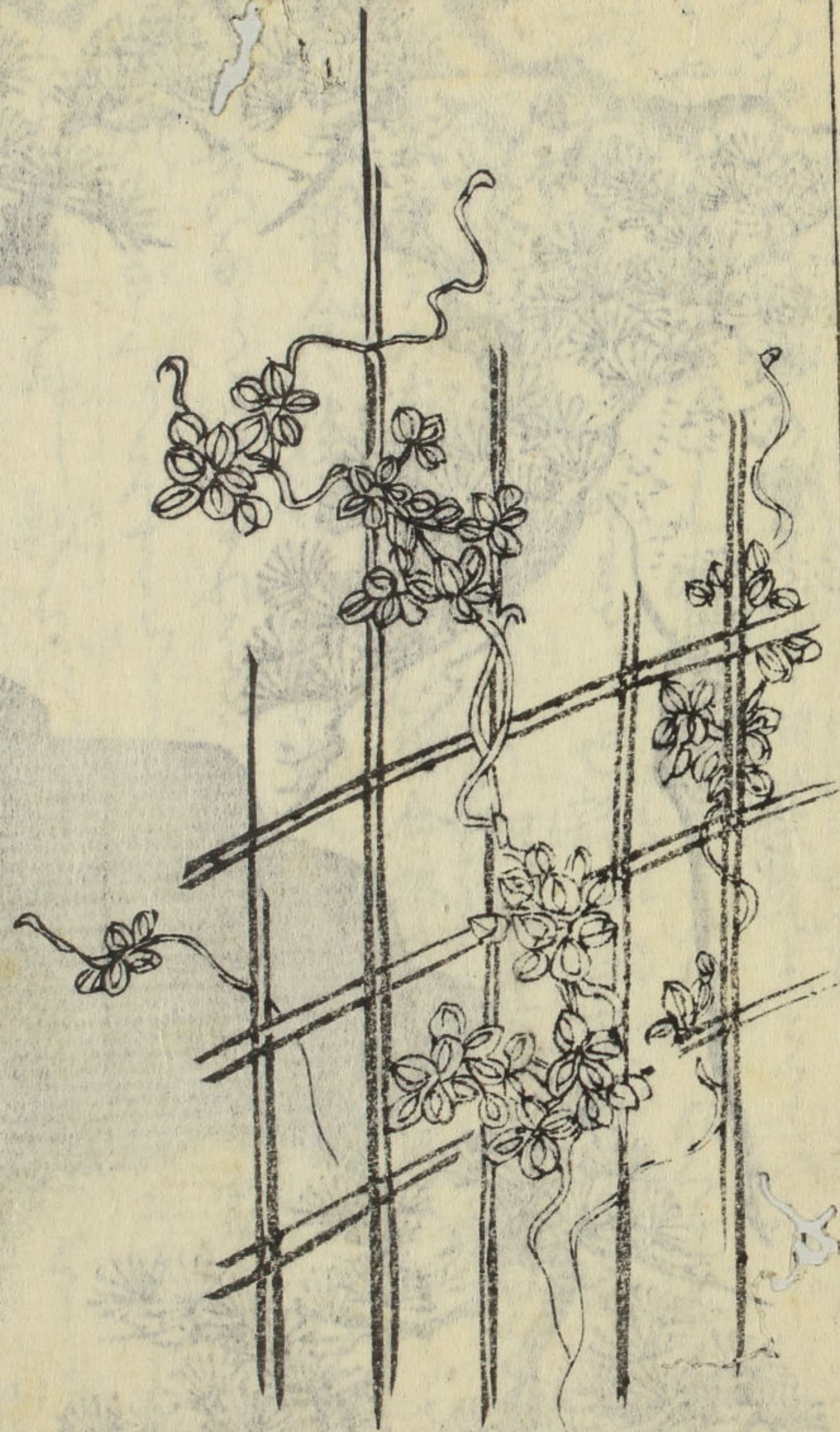
〜ききと求<sup>モトメ</sup>ある何某一杯の酒乃

醉<sup>コト</sup>あよ〜つゝ寝きるも〜根支

〜の〜も〜はづ〜

加〜者なよ〜

藤原家五



ネナシカワラ  
菟絲子

純釋筆





いつれのゆゑむゆふのありき何某先生とていふがれ博士あ

アツクもやあももろくの書籍ごとくだらぬとよやく後

らぬ三史五經の巻々いひやもち也諸子百家の説より皇

朝字は古事記日本紀よりしるす祝詞宣命の古言を委曲

み万葉古今の古歌を喟ひ律令格式ハ隋唐のかゝるる

近々んと大寶令ハ淡海大津の朝乃治きとめをうけられ

いふた世のありけりるれとこそしをも正一家これ記録と

をうらべあるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

形のうらやうく世と申し移らば利慾のみふ腰杖をうら

操あつて世より心むのれとよめれ学びのるどにハ用ひ

と申すはあつて袖せむくくくくくくくくくくくくくく

と申すはあつて袖せむくくくくくくくくくくくくくく

令事  
八荷四  
宿控  
満り合  
三記  
了未

○京師

一

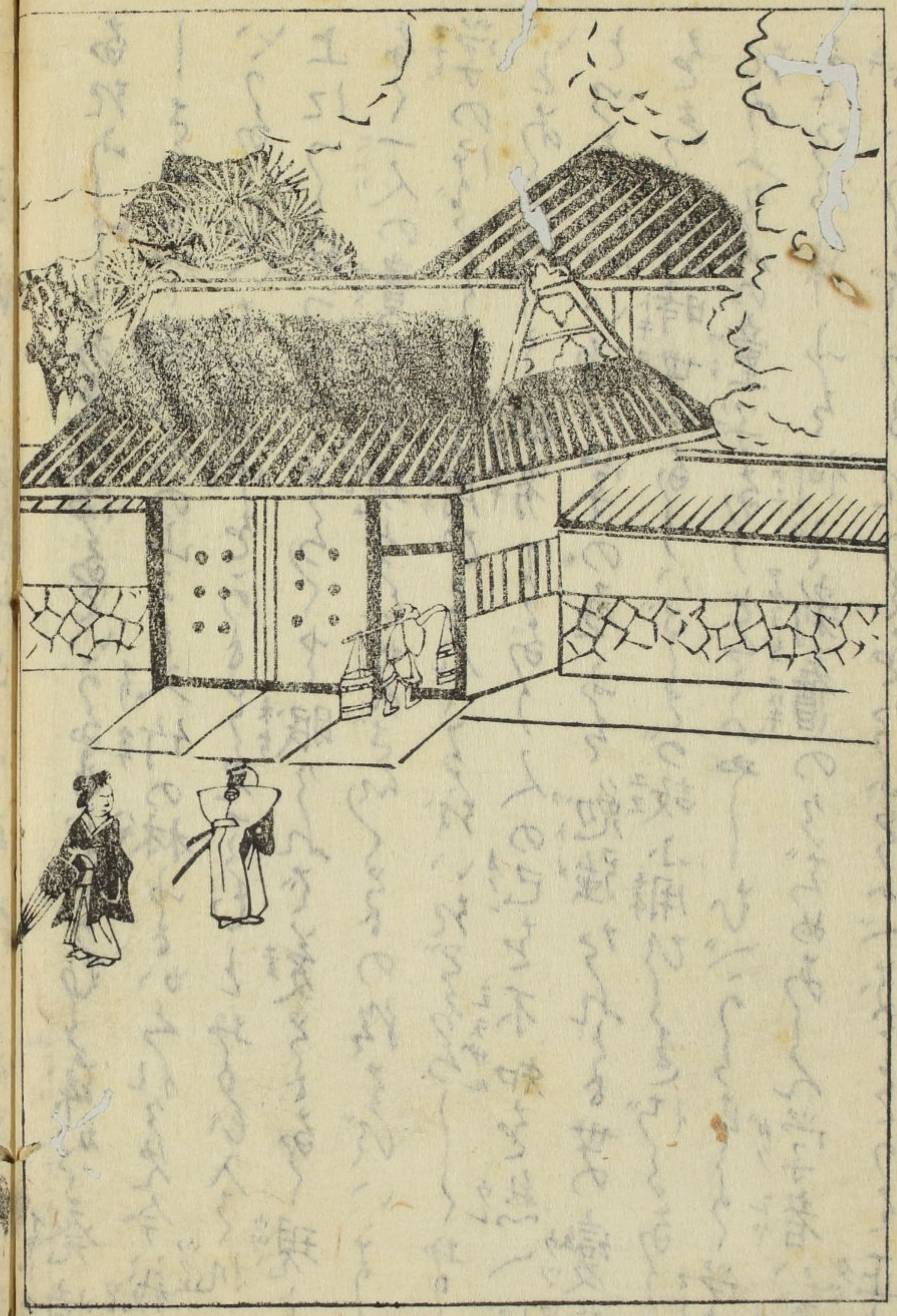








大家の店に  
 くる  
 コお入の鳥













や、儒者、不学で、口不脩身、齊家と唱へ、身、傲誕、薄行、く  
人、と罵詈で、泥、飲、聖賢、の、ろ、ろ、ろ、細見、の、ろ、ろ、ろ、と、  
國學者、ハ、自ラ、古學、と、い、ひ、る、ろ、ろ、皇國、の、上、古、を、志、す、る、ろ、ろ、  
ふ、ろ、ろ、ろ、ろ、又、今、の、京、以、來、を、志、す、る、ろ、ろ、古、風、の、ろ、ろ、ろ、ろ、  
万葉、の、詞、を、き、き、し、た、の、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、  
ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、の、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、  
の、印、字、語、ハ、諸、佛、語、を、文、禁、咒、の、終、ハ、神、道、加、持、と、い、ひ、拍、手、を  
拍、手、と、い、ふ、類、や、香、火、院、の、和、尚、經、外、別、傳、と、い、ふ、ハ  
歳、龍、女、小、夜、と、い、ふ、早、の、未、亡、人、を、虎、と、い、ふ、成、佛、と、い、ふ、夢、舟、の、上、座  
と、い、ふ、説、法、僧、念、佛、題、目、の、跡、と、い、ふ、能、優、の、聲、色、と、い、ふ、ろ、ろ、  
容、と、い、ふ、氣、の、蔭、蔭、を、有、頂、天、の、の、ぼ、せ、類、即、菩、提、と、い、ふ、つ、け、茶、傳  
ハ、真、基、子、と、い、ふ、盛、籠、の、媒、妁、小、月、を、ゆ、り、骨、董、肆、と、い、ふ

は、ち、ぢ、て、茶、扱、を、高、料、と、い、つ、け、あ、ど、生、子、の、馬、販、を、と、い、  
蒙、師、の、筆、生、を、や、富、書、家、の、書、日、僧、と、珍、書、家、の、貸、本  
料、で、得、利、な、ら、ひ、る、と、い、ふ、敢、て、む、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、  
ハ、本、來、無、東、西、の、理、を、志、す、る、天、地、を、戲、弄、し、猶、人、を、と、い、ふ、  
あ、ろ、ろ、ろ、井、を、埋、の、窓、を、塞、た、疊、を、断、柱、を、ぬ、の、む、是、皆  
生、を、合、員、と、い、ふ、悠、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、  
ど、や、術、家、と、い、ふ、今、ハ、大、方、あ、れ、と、い、ふ、ろ、ろ、我、上、古、大、占、の、術、あ、り、  
今、の、ト、者、不、ま、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、  
者、あ、り、易、者、あ、り、て、易、を、志、す、る、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、  
活、花、師、ハ、大、方、草、木、の、生、育、を、失、ひ、奇、を、好、む、戸、封、繪、の、と、い、  
ろ、ろ、の、ト、流、枝、ハ、猿、猴、の、手、不、似、と、い、ふ、猶、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、  
ど、汝、の、身、よ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、  
の、能、餘、子

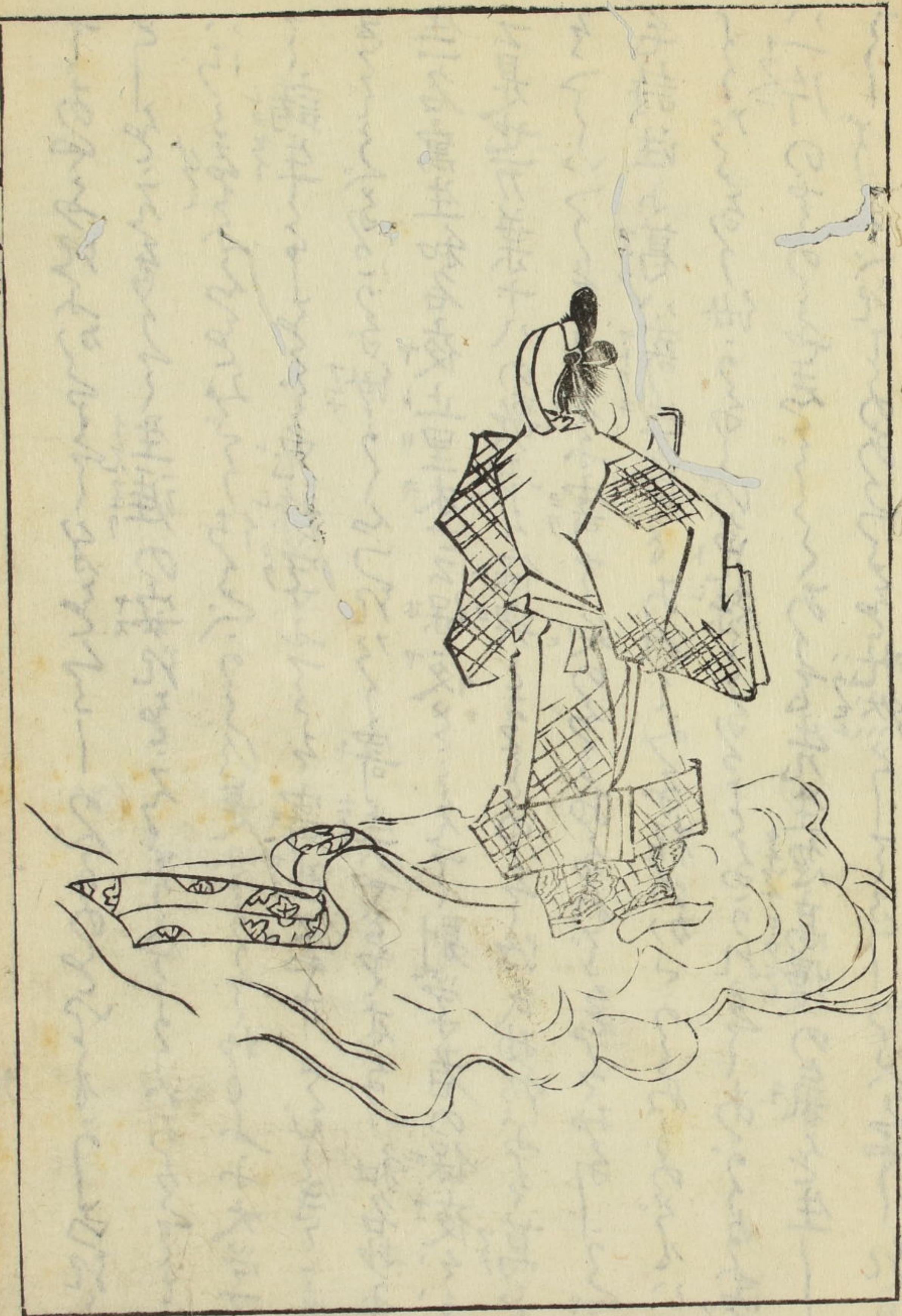














てあやふたふかきまゝに身をどろろとめりぬるものぞうまひに  
 ころもえもろくく生涯の安んじをえりて今よりこのくまも及  
 ばらざるふらむとびざり侍るべしは是れまじりてゆめよ小大学ふ  
 諸生とてやもを免絲学ふてま寄生とてやまむとまきとま  
 まごころとまうらふけりくつれたる寄生やとてまらう和名抄小寄  
 生名寓生和名夜止里木云保夜とてまて別学者の保夜とて  
 云是也万葉十八の歌中々保與とてまのま源氏物語中々葛とま  
 ろくくまうらふま小寄とて延のちまおれをまらまのうら  
 毛詩注上葛ハ寄生也とてあれをみま根のかさうまぬものぞハ似  
 ろくくまうらふけりくつれたる免絲とてまらうまらうまらうま  
 二片のまのまもまあて先生忽高慢の氣を生一は  
 一げまらふたしものあつてまを然らうてまらうらまらうた

ゆのれ何れ尋常の免絲学ふてま元来貞操正一は松うらま  
 をまらう大木とてま棟梁とてまむとてけりま昔吉野拾遺とてま  
 書をまらうに天狗とてまらうまらうまらうまらうまらうま  
 小招とてま亦大木とてま  
 むとまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうま  
 あつて一志たうの風とてまらうまらうまらうまらうまらうま  
 聞驚とてまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうま  
 高れ神赫然とてまらうまらうまらうまらうまらうまらうま  
 の昔天の八衢とてまらうまらうまらうまらうまらうまらうま  
 宿ふまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうま  
 せし返神とてまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうま  
 神通力とてまらうまらうまらうまらうまらうまらうまらうま

の免絲学







大正物

大人を  
大正物  
大正物



大正物





白蛇とみえ鏡裏と鯨魚ととあり也この鏡は又鯨魚の目を見せ  
 小白魚の目も入て真魚板の上ふあり鯢魚の目も入る  
 と投入しつるはつる鏡具の端小あり鯢魚の目も入る  
 あつての壁を破行出たる壁虎ありつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 養蚕居たり先生奇異の物語ありつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 虫どもつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 少のたつる表裏ふつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 鏡は何とものつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 を人間界とて天眼鏡とてつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 目を目高美の魚虎とみえ猫子の猛虎とみえつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 観音とて鏡に赤鬼とてつるの鏡は又鯢魚の目も入る

破戒法師も智職上人とて生歌人も歌聖のふつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 大木と小木とつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 人間界小無志眼鏡とつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 りを真似ひつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 あつて大方の鏡小ぢつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 美人小人の大人とみえ也此小去のつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 人とみえ百両の呉服料をえ小人とみえ大先生とみえつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 三口五口の御給をえつる権威と今汝が親を鯨とみえつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 ち眼鏡の光をえつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 うげの鏡天小口の鏡人をつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 人をつるの鏡無志眼鏡の業ありつるの鏡は又鯢魚の目も入る  
 鏡とつるの鏡誰か眼鏡とつるの鏡は又鯢魚の目も入る





おめうの子  
小人を  
大人と  
見せぬ









1871  
 1872  
 1873  
 1874  
 1875  
 1876  
 1877  
 1878  
 1879  
 1880  
 1881  
 1882  
 1883  
 1884  
 1885  
 1886  
 1887  
 1888  
 1889  
 1890  
 1891  
 1892  
 1893  
 1894  
 1895  
 1896  
 1897  
 1898  
 1899  
 1900



